All for you

ふそう目より情報

WINTER '11

FUSO

冬道運転にご用心!!

安全ドライブのチェックポイント

積雪や路面凍結など、冬の道は変化が多く危険がいっぱい。特に、事故の起きやすいエリアでは、いっそうの注意が必要です。安全走行のために、注意ポイントをしっかり覚えて、慎重な運転を心がけましょう。

冬の安全運転3か条

1. 急ブレーキや急発進など、“急”のつく運転操作は、絶対に禁止。
2. 自分の運転技術や車の性能(4WD等)を過信しないで、つねに慎重に。
3. 同じ道でも、朝・昼・夜で変化するため、路面状況をよく把握した運転を。

坂道

雪の坂道は、一度止まってしまうと再発進がしにくい場所。すれ違いのときは、上りの車が優先です。

切り通し

強い横風に注意。背の高い車は、特に注意が必要です。

日陰

日が当たりにくいエリアは、晴れた日でも気温が低いときは、路面が凍結している場合があります。

トンネル出入口

光の強弱が大きく目がくらむことも。また、横風や路面の雪にハンドルをとられないよう、しっかり握りましょう。

橋・高架橋

寒風にさらされているため、気温や路面温度が低く凍結しやすい。十分にスピードを落として、横風にも注意。

カーブ

カーブ手前で十分に減速し、運転操作はゆっくりと。急ハンドルや急加速は禁物。対向車線へはみ出しにも注意。

車間距離

滑りやすい雪道・凍結路は、ブレーキをかけてもなかなか止まりません。車間距離は普段より多めにとりましょう。

交差点

ブレーキを踏むことが多いため、摩擦熱で溶けた雪が凍結して路面がツルツルになっていることが。交差点の手前から十分に減速しましょう。

田園・平野部

冬から早春にかけて、強い季節風が吹くことがあります。雪国では、突然の地吹雪※1で視界がさえぎられる危険があるので要注意。

冬道で「困らない」ために

●発進はふんわりと
タイヤが空転しないよう、発進時はゆっくりとアクセルを踏み込んでいきます。

●ブレーキは小刻みに※2
急ブレーキはスリップのもと。軽く小刻みに、何回も繰り返し踏むようにします。

●上り坂でなるべく止まらない
上り坂で停止後の発進は大変。先行車に気をつけて途中ではなるべく止まらないように。

●駐車ブレーキはかけない
長時間駐車の場合、ブレーキ装置が凍結して駐車ブレーキが戻らなくなることがあります。MT車はシフトレバーの位置を「1速」または「後退」に、AT車は「P」の位置にして輪止めをしましょう。

※1:地吹雪:積雪した雪が強風で空中に舞い上げられて、視界が損なわれる状態。
※2:ABSが作動した場合は、ブレーキペダルを力いっぱいに踏み続けることが必要です。細かい振動等があっても、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。

安全は日々のチェックから!

冬に気をつけたい 点検&整備ポイント

冬は車にとっても厳しい季節。事故も起きやすくなります。
性能が低下しやすい部品には特に注意し、補給や交換など、
日々のメンテナンスを忘れずに行いましょう。

スノーワイパーがおすすめ

雪によってワイパーが凍り付かないように、ブレードがゴムで覆われています。駐車時は、ワイパーが窓に固着しないように立てておきましょう。

ウォッシャー液量をチェック

雪道ではフロントガラスが汚れやすいため、頻繁にウォッシャー液を使用します。出発前に液量をチェック。水だけの場合は、不凍効果のあるものに換えましょう。

LLCの濃度をチェック

ふだん運行しているエリアの最低気温に合ったLLC(冷却水)の濃度になっているか確認しましょう。

※LLCの濃度が30%以下になると防錆効果が劣るため、気温が−10℃以上の地域でも、最低30%以上になるように濃度を設定してください。

エンジンオイルは冬用を

夏用のエンジンオイルは粘度が高く、そのまま冬期にも使用するとエンジンの始動困難や潤滑不良が生じます。必ず冬用に交換しましょう。

雪道用タイヤに交換

雪道の運行は、すべてのタイヤをスタッドレスタイヤ、スノータイヤにするのが常識。タイヤの山が5〜6分に摩耗したら、性能限度は半減するので交換しましょう。

バッテリーに気をつけて

バッテリー液の量や比重が適当かチェックしましょう。ふだんは大丈夫でも、寒冷地へ行ったら突然働かない!ということもあるので、ご注意。

タイヤの空気圧をチェック

スタッドレスタイヤは、ノーマルタイヤと比べてグニャグニャとした手応えがあります。そのため空気圧を高めにしがちですが、指定の空気圧を守りましょう。

灯火類をチェック

ライトやウインカー、テールランプ付近などに雪が積もっていないかを確認。運転中に光が遮られることがないよう、確実に雪を落としましょう。

AdBlue®の残量チェック

BlueTec®システムの搭載車は、Adblue®の残量を常にチェック。また、尿素水タンクはヒーティング回路付ですが寒冷地では凍結にご注意ください。

タイヤチェーンを携行

冬用タイヤを装着している場合でも、勾配のきつい上り坂や路面状況によってはタイヤチェーンが必要になることも。常に携行しておきましょう。

冬タイヤに交換した後は・・・

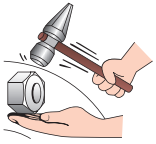
ディスク・ホイールの日常点検を忘れずに

1.目視での点検

- ホイール・ナットの脱落、ホイール・ボルトの折損はないか。
- ホイール・ボルト付近に錆汁が出た痕跡はないか。
- ホイール・ナットから突出しているホイール・ボルトの長さに不揃いはないか。

2.点検ハンマなどを用いての点検

ホイール・ナットの下側に指をそえて、点検ハンマでホイール・ナットの締まる方向に叩いたときに、指に伝わる振動が他のホイール・ナットと異なったり、濁った音がしないか。



ホイール・ナットの増し締め

ホイール・ナットの締付け力は、ホイール取付後の走行による初期なじみによって低下します。**取り付け後は50〜100km走行を目安に増し締めを行ってください。**

「締付トルク」は規定値どおりに

ボルトには、適正な「軸力」があり、それを大幅に超えるとボルトやネジ部が損傷します。締付トルクは、整規定値に従ってください。

万が一の時に備えましょう。冬のトラック装備品

- タイヤチェーン
- 手袋・長靴
- けん引ロープ
- ブースターケーブル
- 懐中電灯
- スノーブラシ
- スコップ
- タオル
- 緊急脱出板
- 非常食

あると便利なアイテム

毛布、解氷スプレー、鍵穴凍結防止スプレー、針金

※詳しくは、各車両の取扱説明書をご参照ください。

要確認!! 保存版

大型・中型・小型 車種別定期 交換部品一覧表

スーパーグレート
ファイター
キャンター

トラブルなく安全でスムーズに運転するためには、定期的なメンテナンスや部品の交換が必要不可欠です。主な定期交換部品の交換サイクルをわかりやすく“車種別”にまとめました。定期交換部品は、交換を先延ばしにすると重大な事故や故障などにつながりますので交換時期を守りましょう。

スーパーグレート

▶'10年型	6R10型エンジン		▶'07年型	6M70型エンジン	
エンジンオイル(DH-2オイル)	40,000km	□		40,000km	□
エンジンオイルフィルター(DH-2オイル)	40,000km	□		40,000km	□
燃料フィルター	80,000km または 1年	□		50,000km または 1年	□
エアクリーナー	100,000km または 1年	□		100,000km または 1年	□

ファイター

▶'10年型	6M60型エンジン		▶'07年型	6M6・4M5型エンジン	
エンジンオイル(DH-2オイル)	20,000km※1	□		20,000km	□
エンジンオイルフィルター(DH-2オイル)	40,000km	□		●6M6エンジン 40,000km ●4M5エンジン 20,000km	□ □
燃料フィルター	50,000km または 1年	□		50,000km または 1年	□
エアクリーナー	80,000km または 1年	□		80,000km または 1年	□

※1：シビアコンディション時は、10,000km

キャンター

▶'10年型	4P10型エンジン		▶'07年型	4M5・4M4型エンジン	
エンジンオイル	40,000km※2 または 1年	□		15,000km※3	□
エンジンオイルフィルター	40,000km または 1年	□		15,000km	□
燃料フィルター	40,000km または 1年	□		30,000km または 1年	□
エアクリーナー	40,000km または 1年	□		40,000km または 1年	□

※2：シビアコンディション時は、15,000km

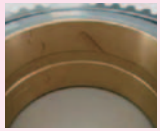
※3：シビアコンディション時は、7,500km

※詳細については、各車両の取扱説明書を参照の上、交換を行ってください。

新長期4M50T搭載の特装車(冷凍車、塵芥車、クレーン車等)は、早めのエンジンオイル交換をお勧めします。

例えば冷凍機コンプレッサの搭載車両では、庫内温度を保つためなど通常より長時間のアイドリングを必要とされる場合があります。この場合、走行距離に応じたオイル交換時期よりも早くオイルが劣化して、**エンジンのベアリング部品が摩耗することがありますので、早めのオイル交換を行いましょう。**

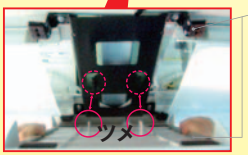
エンジンオイル交換時期
シビアコンディション時：7500km



ベアリング良好品

ベアリング摩耗品

大型観光バスのルームランプ間にあるセンターガーニッシュの取付は確実に。



取付が不十分でセンターガーニッシュが脱落するおそれがあります。手順に準じて確実に作業をしてください。

①センターガーニッシュのツメの位置と、ブラケットのツメの位置を確認し、はめ込む。

②少し下に引っ張り、ツメにセンターガーニッシュが確実に引っかかっているのを確認。

③四隅にあるロックファスナーをしっかりとはめ合わせてください。

PCVのブローバイガスフィルターエレメントの定期交換をお願いします。

PCVのブローバイガスフィルターエレメント交換を怠ると、オイル漏れなど車本来の性能が低下します。必ず定期交換サイクルをお守りください。

PCVのブローバイガスフィルターエレメント交換時期の目安

大型トラック、バス※1（6M7型エンジン）	大・中型トラック、バス※2（6M6型、4M5型エンジン）	大・中型トラック、バス※3（6M6型、4M5型エンジン）
10万km または 1年	3万km または 1年	3万km または 6カ月

※1：新長期・新短期排出ガス規制適合車 ※2：ポスト新長期・新長期排出ガス規制適合車 ※3：新短期排出ガス規制適合車

PCVのブローバイガスフィルターエレメントの役割

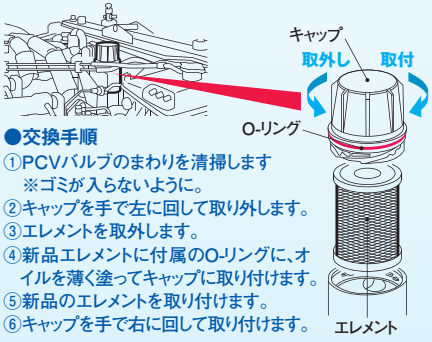
エンジン内部で発生するブローバイガス※を大気に放出することなく、再び燃焼室へ吸入して燃焼させるPCVバルブ。PCVのブローバイガスフィルターエレメントは、この中にあるフィルターで、ブローバイガスと一緒に流入するオイルを分離してオイルパンへ戻し、エンジン内部の腐食やオイルパンの劣化を防ぐ役割を担っています。

ブローバイホースは、経年劣化で亀裂が入る場合があります。フィルターと同時交換をおすすめいたします。

※エンジン内のシリンダーと、ピストンの隙間からクランクケースに吹き抜けるガス。大部分は未燃焼ガスのHC（炭化水素）＋燃焼ガスの一部が混ざったもの。

なぜ交換が必要なの？

オイルミストに含まれているカーボンや不純物がエレメントにたまり、目詰まりを起こすからです。またオイルが劣化してエレメントに付着したオイルが滴下しなくなることも目詰まりの原因となります。



●交換手順

①PCVバルブのまわりを清掃します
※ゴミが入らないように。
②キャップを手で左に回して取り外します。
③エレメントを取外します。
④新品エレメントに付属のO-リングに、オイルを薄く塗ってキャップに取り付けます。
⑤新品のエレメントを取り付けます。
⑥キャップを手で右に回して取り付けます。

交換を怠ると・・・

エレメントが目詰まりを起こしてバイパスバルブが開いたままになり、エレメントを素通りしたブローバイガスが吸気に合流するため、**吸気管内のオイル汚れがひどくなります**。また、**ブーストセンサーの感度低下**や**インタークーラーの熱交換効率の低下**など車本来の**性能を低下**させます。

ご注意 エレメント廃却時は、地方自治体の条例に従って処理してください。処理が難しい場合は、三菱ふそうサービス工場にご相談ください。詳細は取扱説明書をご覧いただくか、お近くの三菱ふそう販売店にお問い合わせください。

定期交換部品4 ステアリングを支える主な部品編

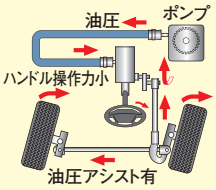
忘れず交換してトラブル予防！

ステアリングは運転操作をタイヤに伝えるなど、操作の正確性や安定性が常に求められる、とても重要な部品です。重大な事故を防ぐためにも、日々のメンテナンスは大切です。少しでも異常を感じたら、確実な整備を行いましょう。

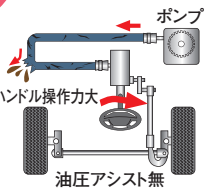
この部品は、どんな働きがあるの？ ／ なぜ交換が必要なの？ ／ 交換しなかったら、どうなるの？

パワー・ステアリング用油圧ホース

大型 中型 小型



振動や伸縮の繰り返しにより、**劣化**してしまうからです。

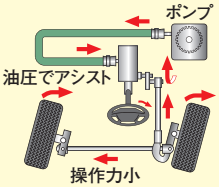


○ ポンプで発生した油圧を伝え、ハンドル操作力を軽減します。

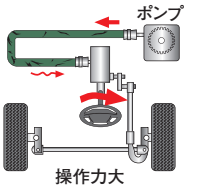
× オイル漏れにより、ハンドル操作が困難になります。

パワー・ステアリング・オイル

大型 中型 小型



パワー・ステアリングの作動熱により、**劣化**してしまうからです。

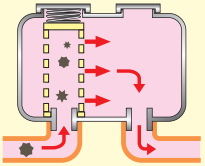


○ ハンドル操作を油圧によってアシストします。

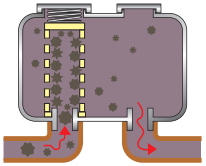
× 劣化したオイルで内部部品が劣化し、ハンドル操作力が大きくなります。

パワー・ステアリング・オイル・フィルタ

大型 中型 小型



不純物が蓄積されて、**目詰まり**が発生してしまうからです。



○ パワー・ステアリング・オイル中の不純物をろ過します。

× オイルの流動不良により、ハンドル操作力が大きくなります。

※車種・年式により交換部品や交換時期が異なります。詳しくは、各車両のメンテナンスノートをご確認の上、忘れずに交換してください。

気をつけて！室内フロア清掃の注意点

室内フロア清掃時の際、**直接ホースなどで水をかけて洗わないでください。各種リレーや電子制御機器などの誤作動や故障を招く原因となります。**間違って水がかかってしまった場合は、乾燥処置または三菱ふそうサービス工場へご相談ください。

室内掃除のポイント

- フロアの砂利などは掃除機で取り除く。
- フロアマットやペダル、機器にかかった水や泥は、雑巾でふきとる。
- フロアマット（ビニールレザー）は、「純正レザークリーナ」を使用しガーゼでふきとる。
- フロアマット（カーペット）は、掃除機でホコリを取り除いた後、「純正カーペットシャンプー」を使用しガーゼでふきとる。
- カバー類（プラスチック）は、台所用洗剤等を薄めて汚れをふきとり、水ぶき、からぶきを行う。
- フロアマットを洗うときは車両から外して洗う。洗浄後は、裏面のフェルト材をよく乾燥させてから取り付ける。

洗車時のご注意

エンジンルームとシャシ下まわりを洗うときは、高圧洗浄機の蒸気や水がスタータ、オルタネータ、コネクタなどの電装品にかからないように注意してください。

その他の注意

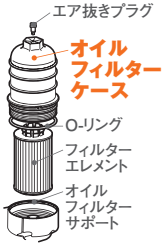
濡れたものをダッシュパネル上に置いたり、靴底に付着した雪などを室内に持ち込んだ場合も注意が必要です。

ご注意とお願い

オイルフィルター交換時のご注意

オイルフィルターケースの過締め付けによる破損に注意

10年型キャンターのオイルフィルターを交換する際に、過締め付けによって樹脂製のオイルフィルターケースが破損することがあります。取り付けるときは、必ず規定のトルクでの作業をお願いします。



平ボデー荷台車をご使用のお客様へ

最大積載量を守ってください

過積載をするとブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、車の各部や動力伝達部品（クラッチ、トランスミッション、プロペラシャフト、デフなど）に悪影響を与え、車の寿命を縮めるおそれがあります。

荷台の不正改造は行わないで

不正改造は、車両各部に悪影響を及ぼすおそれがあります。改造する場合は、三菱ふそうサービス工場にご相談ください。

新型キャンター　知っていると、もしものときも安心!!

バッテリーあがり時の救援方法

新型キャンターは、12Vのバッテリーを使用しています。バッテリーあがりのときは、必ず12Vの救援車を使用してください。

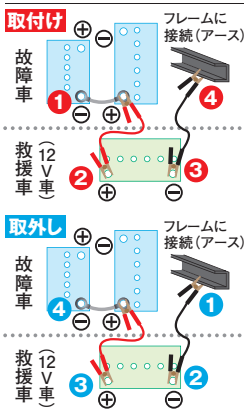
●バッテリー 2個搭載車の場合

①救援車のエンジンを止める。
②ブースターケーブル（赤）を故障車メインバッテリーの⊕端子に接続。他方を救援車バッテリーの⊕端子に接続する。
③ブースターケーブル（黒）を救援車バッテリーの⊖端子に接続。他方を故障車のバッテリーからできるだけ離れたフレームに接続（アース）する。
④救援車のエンジンを始動し、アイドリングよりやや高めの回転数に。次に故障車のエンジンを始動する。
⑤故障車のエンジン始動後、ブースターケーブルを接続したときと逆の順序で取り外す。

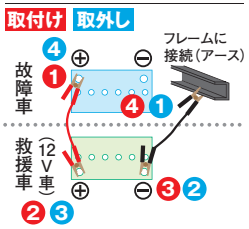
●バッテリー1個搭載車の場合

①救援車のエンジンを止める。
②ブースターケーブル（赤）を故障車バッテリーの⊕端子に接続。他方を救援車バッテリーの⊕端子に接続する。
③ブースターケーブル（黒）を救援車バッテリーの⊖端子に接続。他方を故障車のバッテリーからできるだけ離れたフレームに接続（アース）する。
④救援車のエンジンを始動し、アイドリングよりやや高めの回転数にする。次に故障車のエンジンを始動する。
⑤故障車のエンジン始動後、ブースターケーブルを接続したときと逆の順序で取り外す。

●バッテリー 2個搭載車



●バッテリー1個搭載車



ご注意

- バッテリーから引火性の水素ガスが発生しています。バッテリー近くでライター、たばこなどの火気の使用や、火花を飛ばさないようにしてください。
- バッテリー2個搭載車はメインバッテリーの⊖端子のみを取り外した状態でも、架装側24Vバッテリーの⊖端子に電圧がかかっていることがあります。架装側24Vバッテリーの⊖端子と荷台、フレームがスパナーなどで接触するとショートすることがあります。
- 尿素水添加システムはスタータースイッチを「LOCK」位置にした後も約2分間作動しています。バッテリーを取り外すときは、2分以上経過してから行ってください。

ホームページ　「三菱ふそうホームページ」でお役立ち情報をゲット！

ホームページでは、三菱ふそうの情報や省燃費運転のポイントなどが紹介されています。リコールやサービスキャンペーンの情報なども更新されているため、日ごろからのチェックをお願いします。

〈三菱ふそうホームページ〉 http://www.mitsubishi-fuso.com/ 三菱ふそう 検索

モバイルサイト　携帯電話でお近くのサービス拠点とAdBlue®拠点をラクラク検索

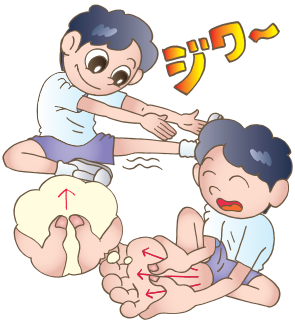
モバイルサイトでは、全国の三菱ふそうサービス工場とAdBlue®取扱店を簡単に検索できます。いつでもどこでもクルマの心強い味方としてご利用ください。

QRコードに対応していない機種の場合は、下記のURLを直接入力してください。
http://mmap.mitsubishi-fuso.com/mbl/mftb_m/index.html

ひとくち NAVI

足の疲れを残さない

おやすみ前には足ケアを。



足は体の中でも一番の働き者。足が疲れると体中の血行が悪くなり、全身の疲れやだるさ、不調にもつながります。だから、足の疲れはその日のうちに解消したいものです。

家に帰ったらまず、ゆっくりと半身浴や足浴を。少し熱め（42 ～ 43度）のお湯で10 ～ 20分浸ければ、足先の血管が広がって血行がよくなり、全身が温まります。

そして足の疲れをとる体操を。ポイントは、足首と股関節、太もも、ひざです。足の各関節と筋肉をゆっくり伸ばすようにストレッチをして、柔軟性を取り戻しましょう。さらに、自分で簡単にできる足つぼマッサージもおすすめ。足裏の各所が体中の臓器や器官に対応していると考えられているからです。たとえば、首と肩のコリが気になるなら足指のつけ根をじっくりと、また腰痛や便秘などの不調があれば、かかとから足首にかけて念入りにマッサージするのがいいでしょう。

足のケアで全身の疲れも回復。安全運転のために、疲れをためない習慣づくりを。

三菱ふそうトラック・バス株式会社
www.mitsubishi-fuso.com

2011年12月 90DXX0011